

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は毎年見直しており ホーム便り『ほほえみ』に掲載している。事業所の玄関に明記しているが分かりにくかった。又、地域への啓発・広報が消極的である。		理念は利用者本位の支援内容であり分かりやすいが、事業所内の掲示を大きくすることと地域密着型サービスとしての理念を追加して家庭的な環境と地域住民との交流を目指した内容にすることが望ましい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有は職員間で話し合いをしており 毎朝、今日のモットーを参考書に沿って声に出して読み、日々の実践に活かしている。		
2.地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の花見や年忘れ芸能大会、年越しそば作り等で地域との交流をしているが自治会や老人会等には加入していない。		地域の人々と事業所がお互い支え合えるような関係作りと地域住民の一員としての自覚と役割を深めていくことを期待する。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいは事業所の質の向上と社会的責任であることを理解しており 法人代表、管理者、全職員が自己評価及び外部評価の項目とその趣旨を活用する姿勢がみられた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は2ヶ月毎に5回の運営推進会議を開催しており 町福祉職員、地域包括センター職員、民生委員、家族2名、事業所職員6名のメンバーが参集して、事業所の運営や実態の報告や施設紹介をしている。新しい制度であり これからますます交流を深めて問題解決や提案等を行い有効活用する姿勢がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口には手続きや報告は行っているが、積極的な働きかけができていない。		地域密着型サービスの意義を理解して、住み慣れた地域で、その人らしい生活が続けられる支援について市町村と事業所が積極的に話し合うことが多くなり、質の向上に繋がることを期待する。
4.理念を実践するための体制					
		家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行しているホーム便り「ほほえみ」で報告している。内容は事業所内での暮らしぶり、行事参加状況、利用者の様子(手書き)、事業所からのお知らせ、事業所の運営記録等である。電話や面会時にも報告している。金銭は預っていない。		
		運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で年一回アンケートをとっており、意見等を反映させている。(看板を作って欲しい等)年2回の家族参加の行事(忘年会、一泊旅行)の時に意見を聞いている。又、運営推進会議にも参加している。苦情相談窓口や意見箱の設置もしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は良く過去一年間継続して勤務した職員が6名居る。法人内での異動もあるがユニホームが同じで馴染みやすい。(法人施設からの入居者が多いため)ホーム長が常勤しており頼られている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人代表自らが海外(オーストラリア)でのグループホームのあり方を15年前に学んでおり認知症の方々に対する思いが深く人間として一人ひとりのあり方の対応が至るところにみられた法人全体の学習会、海外研修全国大会への出席、日常のケアに関する勉強会も計画的に行われている。主任がアドバイザーになっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人施設内の交流や遠方の同業者との交流はあるが、地域内の同業者との交流はない。		地域内での同業者との交流や連携を深めることで今以上の効果を確認する機会となることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所時は本人と家族に事業所を見学してもらい一緒にお茶などの接待をして様子を見ている。</p> <p>現時点での入所は同法人の施設からが殆んどであり職員のユイホームが同じであることと担当者を決めて馴染み易くしている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意なこと、願い、思い、過去の経験を活かす支援を心がけている。</p> <p>利用者には人生の先輩として教えてもらうこともある。(えんどう豆の皮むき、おかずの盛り付け、話を聞くなど一緒に支えあう関係がある。)</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>千葉県に家族に会いたい希望があり仕事のついでに一緒に会いに行ったケースがあった。</p> <p>他にも買い物やパーマ、自宅へ帰りたい等の希望に応じている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>トイレが分からなくウロウロしている利用者には声かけ・誘導をする等、利用者本位の分かりやすい計画である。</p> <p>家族に食事時間に来てもらい一緒にみてもらうこともある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは6ヶ月毎に行っている。しかしながら変化に応じた臨機応変な介護計画を見直した記録がない。</p>		<p>状態が安定していても月に1回程度は本人、家族、職員と話し合っって見直す機会を持つことが望ましい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊の希望の支援、内科医、歯科医の往診を2週間に1回してもらっている。 点滴注射に来てもらったり 病院への受診の支援もしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけの医師の定期的な診察と与薬、食事指導などの支援を本人、家族の納得の上で行っている。他の専門医の診察が必要な時は紹介してもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人全体で1ヶ月に1回勉強会をしており 救急処置の実施もしているが、急変時や終末期のあり方について話し合った記録がない。		利用者は高齢者であり いつ重度化するか終末期を迎えるか不安定な状況にある。できるだけ早い段階から本人、家族、主治医、看護師、職員を交えた話し合いを繰り返し持ち方針を統一することが求められる。(マニュアル作成など)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解に努めており 重要事項説明書にも明示している。又、理念にも掲げてプライバシーに最大限に配慮している。食事の声かけも優しく思いやりのある対応であった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課はあるが、その人のペースを尊重して、希望に添った支援を心がけている。入浴は要望があれば毎日いつでも各々のペースに合わせて行っている。寝坊する人には余裕を持って声かけをしている。希望で買い物や散歩もしている。就寝時眠れない人は梅酒・キンカン酒を飲用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面式の台所で職員と利用者は常に顔を合わせ、お互いの動きが分かるようになっており食事の準備、盛り付け、片付け等がなされている。食べる時は同じテーブルで同じものを食べており 楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として週 3回 14時からであるが、希望があれば朝風呂、寝る前、毎日でも入浴ができる。入浴を拒む人には家族が毎週金曜日の午前中に入浴介助に来ている人もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所独自のプログラムで自己紹介や歌詞を見ながら今月の歌を唄う ラジオ体操を午前中に、午後はレストタイムで休憩時間がある。又、ウッドデッキではお茶飲み会や、食事したり 竹の子採り 草取り 花作り つわの皮むき、蓬採り 切干大根、金柑付け、梅干し、らっきょう付け、梅酒、餅つき等をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事計画を作成しており、外出の支援をしている。日常的にはふるさと訪問、お墓参り 敷地内ではゲートボール、花植え、草取り、そして買い物等、一人ひとりに合った支援があるが、家族への報告が足りない。		自分で意思表示のできない利用者に対して家族からの意見や本人への声かけで本人に合った方法で外出支援をしているが、その結果を家族に報告することが求められる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に外に出られないことの弊害を全職員が認識しており、日中は鍵をかけない工夫をしている。外に出そうな時は見守り声かけをして一緒に歩いたりしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルがあり 毎月夜間を想定して避難訓練をしている。近くに法人の職員宿舎があり 緊急時には職員が駆けつけられるようになっている。警察や消防署との連携もある。しかしながら地震・風水害の災害マニュアルがない。		火災に対しては利用者・職員共に訓練しており、マニュアルもあるが地震・風水害に対する対応方法を地域全体で話し合うことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量はチェックしており、体重の変動により、主食を減らしたり栄養補助食品で補充している。水分は毎食事と10時 15時 19時に摂っている。食事は個人の好みや要望により献立を作成している。専門家のチェック体制がない。		定期的に栄養の専門家による点検やアドバイスを受けて健康面からの食事作りが望まれる。
専門家のチェック体制がない。					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居間を中心に利用者が快適かつ、分かりやすい作りになっており、対面式の台所、炬燵のある和室には仏壇があり、花や鯉のぼり等で季節感があつた。薄型の大きなテレビがあり見やすく、くつろげる長椅子があつた。 トイレやお風呂も分かりやすい表示があり、居間には何処からでも行きやすい工夫があつた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には使い慣れた鏡、タンス、椅子、テレビ、冷蔵庫等が置いてあり、壁には思い出の写真を拡大したものがある。 畳の部屋もあり、好みで選ぶようになっていた。家族も泊まりやすい造りである。		